

『恒心・継承・飛翔』をモットーに邁進しよう!!

岡本直之有恒会会長語る

大阪市立大学と大阪府立大学の統合新大学「大阪公立大学」の開学を来春に控え、昨年創立130周年を迎え、歴史と伝統を誇る有恒会としてこの変革の時代にどのようにして飛躍・発展を期していくのか、新年度当初に当たり岡本直之会長に語っていただきました。

新大学の発展、同窓会の支援がカギ

昨年はコロナで始まり、そのコロナも収束しないまま、1年間翻弄(ほんろう)されました。大学創立140周年も有恒会の設立130周年も予定通り行事ができず本当に残念でした。しかしながら、事務局の努力もありデジタル化が進み、ブロック会議のリモート開催等これまでになかった取り組みができ、時代に即応できた点はよかったのではないのでしょうか。

いよいよ来春の開学に合わせて発足する新大学同窓会について担当者レベルの話し合いが始まりましたが、統合により夢ある大学となるように同窓会の役割は何かを考え、両大学で団結して応援できればと思います。

連携し、リーダーシップを

そういった状況の中で有恒会の存在は大きく、先頭に立って引っ張っていかなければならないと思っています。



特に府大の同窓会の皆さんとは「共に手を携えて同窓会をつくっていく」という基本スタンスで取り組んでいくことが大切です。そして新大学に対し、プレゼンスを高めるようなバックアップができればと思っています。

市大では学生気質といわれている群れない一匹狼的な卒業生が多いとみられ、同窓会活動に馴染まない人たちがいる一方、府大卒業生には自由で柔軟な発想をする人が多いと聞きます。この統合の機会に是非ともお互いのいいところを学び合い、若い人や女性の皆様方が気軽に、そして積極的に参加できる同窓会に生まれ変わっていただけたらと思います。

一本化し卒業生の受け皿に

新大学同窓会での有恒会の立ち位置は、あくまでも府大の文系同窓会の皆さんと共に新大学同窓会の中で活動していくことにあり、将来的には新大学文系卒業生がスムーズに同窓会に入ってもらえるよう一本化していくことが望ましいと思います。

孟子の言葉に由来した「恒心(物事に動じず揺るぎない高い志)を持った同士の集まり」を意味する「有恒会」の輝かしい伝統を受け継ぎ、130周年のキャッチフレーズである、『恒心・継承・飛翔』をモットーに活動に取り組んでいこうではありませんか。

文責 藤山純一(法昭51卒)

初のリモートによる支部ブロック会議、全国支部代表者会議を開催

昨年から今年にかけてコロナ禍で一同に会して情報交換を行い、親睦を深めるという会議がことごとく中止となる中、初のZoomを利用した「支部ブロック会議」をリモートで開催。昨年11月26日の近畿地区支部ブロック会議＝写真＝を皮切りに東地区、中地区、西地区と相次いで開き、今年3月13日には昨年開催されなかった全国支部代表者会議もリモートで開催し、これまでに以上に活発な論議を展開することができました。

近畿地区では京滋、大阪北、大阪南、北摂、南大阪、北河内、神戸、宝塚、姫路しらさぎ、奈良の各支部長(代理も含む)、東地区は昨年12月15日、北海道、東北、埼玉、千葉、東京、横浜、湘南の各支部長(同)ら、中地区は今年1月19日、静岡、富山、石川、福井、北陸、愛知、三重の各支部長(同)、西地区は2月17日、広島、福山、山口、山陰、愛媛、徳島、福岡、長崎、沖縄の各支部長(同)がそれぞれ参加しました。

大学からは荒川哲男学長や鈴木洋太郎副学長、数中昭二大学サポート交流室長ら、本部からは岡本直之会長ら役員、事務

局員らが参加。各支部からは近況報告のほか、統合新大学に関する情報提供を求める声や会員への案内状送付の郵送費用が重荷になっているなど支部運営への支援を要請する声も出されました。

全国支部代表者会議には台湾、香港、クアラルンプール、ニューヨークなどの海外支部も参加しました。

リモート会議については、初めての試みということもあり、開始直後は少しトラブルもありましたが、概ね好評で本部では今後も継続していく方針です。

竹中敏実(経昭49卒)



「新しい有恒会」を目指す基本方針

2021年度は新大学への移行に向け、重要な課題に取り組むべき大切な時期となります。有恒会の長い歴史に育まれた同窓会活動の基本を踏まえたうえで、旧習にとらわれることなく、整備された支部網を活かすとともに、組織・体制、運営方法等を大胆に見直し「新しい有恒会」を目指します。以下に基本方針を記します。

1. 体質強化を図る

蓄積された豊富な人材を活かし、組織化、ネットワークづくりを進め、会員増強を図ります。組織運営体制の大幅な見直しを行い、身の丈に合った体制のスリム化と効率的な会運営により、強靱な体質への転換を図ります。

2. 大学とともに歩む

新しい母校となる新大学を支えるため、大学と同窓会の相互支援体制の連携強化に努めます。同窓会活動の原点は同窓生の懇親、交流にあり、大学支援につなぐための場づくりこそ同窓会の大きな役割です。各界で活躍する幅広い人的資源を生かした大学、学生への支援活動を継続強化します。

3. これからの同窓会を目指す

整備された支部網を活かし、地域単位での少人数での懇親、交流活動を中心に進めます。それぞれの特性を生かした活性化策を推進、そのための支援を継続強化します。IT化の推進で、これまで接点が少なかった海外支部等、遠隔地支部との交流を拡充します。また準会員や若手現役世代会員にとって魅力ある同窓会活動にも力点を置きます。

統合新大学で全学同窓会の中核的存在に

令和2年度有恒会定期総会

毎年6月に開催の定期総会は、コロナ禍により昨年11月3日に大阪市立大学学術情報総合センター10階大会議室で延期開催。幅広い年代層への取り組みと地域に根付いた支部活動を重点課題に、コロナ禍である時にこそできることに取り組み、統合新大学を視野に全学同窓会の中核として在学生支援に注力、「新しい有恒会」として体制整備していくことになりました。

総会では、会則一部改正ならびに、令和元年度活動報告と決算報告、令和2年度活動計画と予算案等が審議、承認されました。

令和元年度報告では、定期総会、支部総会、就職支援の交流会やビジネス交流会などが開催されましたが、令和2年3月開催予定の全国支部代表者会議は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止に。さらに有恒会創立130周年にあたる記念すべき年でしたが、コロナ禍の中、各種行事が中止、延期され、有恒会総会と130周年記念式典もこの日に延期されました。

総会終了後、130周年記念式典を開催、岡本直之会長と荒川哲男学長の挨拶があり、有恒会スローガン優秀賞「恒心・継承・飛翔」を創作した中村裕子さん(文平27卒)を表彰。コロナ禍支援として、市大医学部附属病院、大学祭実行委員会、社会福祉法人野のはなにそれぞれ100万円の目録を贈呈しました(その後、附属病院と野のはなに追加支援)。また有恒会アワード表彰では、令和元年度優秀賞の京滋支部と特別賞として北陸、福岡、南大阪、北摂、静岡、湘南の6支部が表彰されました。

コロナ禍に立ち向かう人々へ、有恒会が支援。

2020年1月に勃発した新型コロナウイルスは、私たちに大きな打撃を与えました。そのような中、コロナ禍に立ち向かう人々へ有恒会から経済的支援として各々100万円を贈呈しました。贈呈先については、大阪市立大学医学部附属病院、大阪市立大学大学祭実行委員会、社会福祉法人野のはなの3団体で、その後、大阪市立大学医学部附属病院と野のはなには追加支援を実施、計500万円を支援しました。

●大阪市立大学医学部附属病院

「安全・安心」にご来院いただけるために」をスローガンに、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底。さらに市大病院の勤務看護師のための新型コロナウイルス感染症対策備品購入費として、資金使途を限定した別途支援。

●大阪市立大学大学祭実行委員会

ふたば祭、銀杏祭が中止になりましたが、コロナ禍収束後、新入学生へのエールとなる音楽祭等への基金として支給。

●野のはな

野のはなが運営する学術情報総合センター1階のレストラン「野のはなハウス」が学生食事支援の一環として、1食200円で学生に提供。補助金として野のはなに支援。さらにコロナ禍が長引いたため、学生食事支援がまだまだ必要と考えられることから、第2弾として追加支援を決定。内容については前回と同様。



コロナ禍支援先の方々和有恒会アワード受賞者。前列左から頓花修二・南大阪支部長、藤野正純・京滋支部長、岡本会長、中村委員(有恒会スローガン優秀賞)、中尾浩己・北摂支部副支部長。後列左から川上 悟・大阪市立大学附属病院事務局長、前川慧太・第71代大学祭実行委員長(商2)、竹野友基・第70代大学祭実行委員長(工3)、笠原優・野のはな理事長

新部会長及び新事務局長紹介

事業部会長 北村吉文(経昭48卒)

大学卒業後、東京海上火災保険に入社、グループ会社を含めて43年間の会社勤務のうち、2016年に縁あって同窓会活動にお誘いいただき、主に学生向けプログラムの運営に携わってきました。大学が新しく生まれ変わるタイミングにあり大きなプレッシャーを感じますが、少しでもお役に立てればと思います。よろしくお願ひ致します。



財務部会長 藤山純一(法昭51卒)

大阪・南区の松屋町に生まれ、大学卒業後、奈良県の地方紙・奈良新聞社に入社し、編集、営業、販売、大阪、東京支社、論説委員などを経て、奈良日日新聞の復刊に携わり、2年前に退任いたしました。これまで奈良支部では活動していましたが、縁あって本部の同窓会にお誘いいただき、新参者ですが、よろしくお願ひいたします。



事務局長 世瀬義久(経昭53卒)

大学卒業後は鉄鋼・非鉄関係の専門紙である産業新聞社に入り、大阪本社で主に製鋼原料や電気炉メーカーを担当、名古屋市や広島市でも勤務しました。退社後に仕事でお付き合いがあった羽原頭三先輩(商昭38卒)よりお誘いがあり、広報委員として会報作りに参画、このほど事務局長に就任させていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。



有恒会の運営体制が4月1日から以下の通りになります。

岡本直之 会長(商昭45卒)	総務部会 小林俊介 部会長
小林俊介 会長代行(法昭44卒)	財務部会 藤山純一 部会長(法昭51卒)
副会長:15人	事業部会 北村吉文 部会長(経昭48卒)
監事:6人	広報部会 小林俊介 部会長
部会員:総務 4人・財務 4人	新大学対応 宮川正一 部会長(経昭45卒)
会員 8人・広報 12人・事務局 3人	事務局 世瀬義久 事務局長(経昭53卒)
運営委員:合計 24人	

2021年度 商経講座の開催予定

2021年度も以下の要領で商経講座を開催します。来年度は大学が統合されますが、引き続き商経講座は開催されます。

昨年度に受講した学生へのアンケート結果から、今年度の講師は、一般企業や公務員でご活躍の方が中心となっています。一方で若手の方に社会人として、現在どのような経験を積んでいるのか、お話しいただきます。

今年度は下記の方々に講師をお願いする予定となっていますので、興味のある方はぜひ参加ください。

新型コロナウイルス感染状況によってはZoomによる遠隔講義となります。

①日時:2021年10月~2022年1月

木曜日第4限目(15:15~16:55)

②講義方式:14人の講師による14回の講義
(1人の講師は1回の講義)

③教室:杉本町学舎本館地区の田中記念館 1階ホール

④講師予定者(14人、敬称略)

中瀬哲史(宮博平7修):商学部教授

天生聡仁(理院平22卒):富士フィルム

上田雅弘(商昭59卒):TIS(株)常務執行役員、公認会計士

岡崎順平(経平31卒):プロモデル

岡元譲史(生平18卒):地方公務員

川口加奈(経平24卒):ホームドア理事長

白崎智子(経平18卒、生院平20卒):乃村工芸社営業チーフ

高浦みなみ(法平23卒):国家公務員

田中 慎(経平17卒):税理士

友田桂樹(工平22卒):トヨタ自動車製造業研究職

中島謙一郎(経平元卒):ベクトル専務執行役員

中田雅彦(商平16卒):朝日ウッドテック(株)

藤岡勇貴(経平19卒):サンテレビアナウンサー

蓬萊由実子(経昭59卒):日鉄物産総務・広報部長

大阪公立大学の英語表記、「Osaka Metropolitan University」に

統合新大学、大阪公立大学の英語表記について「University of Osaka」から「Osaka Metropolitan University」に変更することを3月12日、西澤良記・公立大学法人大阪理事長と辰巳砂昌弘・大阪公立大学学長予定者、西尾章治郎・大阪大学総長が記者会見して発表。今後両大学で包括連携協定を締結する方向で協議することになりました。

大阪公立大学の英語名称について当初から大阪大学は「正式な英語名称は Osaka University だが、University of Osaka についても海外では大阪大学を表すものとして認識されており、留学生や海外の研究者にとって混乱を招く」として再検討を申し入れていました。

これを受けて公立大学法人大阪と大阪大学が協議を重ねた結果、今後大阪大学との間で良好な関係を築いていくためにも英語名称の問題解決が大事という結論となり今回の変更に至りました。

記者会見で西澤理事長は「大阪大学との連携をより強化し、大阪発世界レベルの大学を目指したい」、辰巳砂学長予定者は「世界に冠たる高度研究型大学にふさわしい名称。大阪大学とは様々な分野で協力関係を深めていきたい」と強調。西尾総長は「大阪という大都会をベースにした高度な研究型大学にふさわしい名称。2025年大阪・関西万博の成功に寄与するため、お互いに得意分野を持ち寄り、緊密な連携をしていきたい」とエールを送りました。

多彩な創立140周年記念事業

大阪市立大学では創立140周年記念事業として学内設備の改修、新設などに取り組んできましたが、昨年11月に「1号館ミュージアム構想」の一環として「140周年記念展示室」を開設、今年春には「1号館講堂の改修」と「全天候型グラウンドの整備」が完成しました。

140周年記念展示室は登録有形文化財でもある杉本キャンパスの1号館に開設、大学の歴史の紹介や貴重な学術標本など約100点が展示されています。展示室の見学には事前予約が必要で、メールで受け付けています。

1号館講堂の改修は昨年の春から工事に着手、今年2月末に完成し3月の卒業式で供用が開始されました。昭和9(1934)年に建設された由緒ある建築物ですが、改修にあたっては一部耐震補強を実施、当時のデザインを復元する一方、音響などは最新設備を取り入れました。今後は各種の式典や講演会などで使用することになっています。

全天候型グラウンド(人工芝グラウンド)は今年1月5日から設置工事に着手、4月8日にキックオフイベントを実施し、供用を開始しました。今後は天候に関係なく体育の授業やサークル活動などで多くの学生が使用できるようになり、市大ブランドの向上にも資すると期待されます。

来年4月の大阪公立大学の設立を控え、本年度は大阪市立大学としてまさに「ラスト・イチダイ」の年度となります。ラスト(LAST)は「最後の」という意味のほか、「続く」という意味もあります。「140周年記念展示室」を「大学史資料博物館」として育てていく「1号館ミュージアム構想」の実現を「ラスト・イチダイ」事業の核として位置付け、今後も広報していきます。



講堂の改修竣工で鏡開きをする 左から 岡本会長、荒川学長、湯浅勲・教育後援会代表幹事

有恒会総会、6月12日に開催

有恒会の2021年度定期総会を6月12日(土)午後1時から大阪市立大学学術情報総合センター10階の大会議室で開催します。

今回も新型コロナ禍を勘案し、規模を縮小しての開催を予定しています。どうぞよろしくお願いいたします。

就職活動状況について

内定、昨年並みの95%前後

今春卒業予定の卒業生・修了生の内定状況については概ね昨年並みの95%前後(2021年1月末時点)が見込まれています。現3回生およびM1生についてはコロナ禍で大きく様変わりした就職環境も2年目となり、学生、企業、官公庁共に変化に対応しつつあります。採用活動においてはインターンシップからの早期選考が増加し、WEBを主体としつつ最終面接等では対面での採用活動も再開される予定です。3月から就職活動本番を迎えていますが、まだまだコロナ感染の影響を注視しなければならない状況です。今後も学生の安全・安心を最優先課題とし、適切な支援を提供できるよう鋭意努力していきます。

(学生課キャリア支援室)

2021年有恒会定期総会・講演会ご案内

- 日時 2021年6月12日(土) 午後1時～(受付12時30分)
- 場所 大阪市立大学・学術情報センター10階大会議室
- ◆講演会 午後1時～1時25分 講師 四代目・玉田玉秀斎師
- ◆定期総会 午後1時30分～

※新型コロナウイルス感染防止並びに出席者の健康安全確保の見地から、参加者を少人数に抑えての開催とさせていただきます。出席希望者は以下のメールアドレスからお申し込みください。

※なお大阪市立大学全学同窓会の定期総会は当日午前11時から同じ会場で開催されます。

〈連絡先〉 大阪市立大学 田中記念館内 有恒会事務局
TEL:06(6605)2087 FAX:06(6605)2088
E-mail:yukokai@ado.osaka-cu.ac.jp

編集後記

来春の大学統合を控え、同窓会もその準備を進めるとともに、執行部体制も若返り?を図ることにし、より充実した活動を行う所存ゆえよろしくお願いいたします。とはいえ、昨年来のコロナ禍により活動は停滞、支部総会も開かれない状況となっているため、初の試みとして昨年11月より地域別に学長も出席のもとリモート情報交換会を開催。それこそ禍を転じて福と為す。特に海外を含め遠方の同窓生とのコミュニケーションが取れたのは大きな収穫でした。今後も地域同窓会の発展のためのサポートを強化・継続していく予定です。

(編集人)

投稿のご案内

皆様方の近況・ご意見を投稿を「読者の声」欄に掲載しますので奮ってご投稿ください。(200字程度) 投稿先:kaiho-b@ado.osaka-cu.ac.jp